

## 信心・慈愛・社会的絆

### 中・近世ヨーロッパにおける兄弟団(コンフラタニティ)の機能と役割をめぐって

河原 温

#### はじめに

中・近世ヨーロッパにおいては、12世紀から13世紀にかけて俗人のキリスト教信徒によって運営される「自発的な信心の団体」が設立された。それらの団体は *confraternita*, ないし *fraternitas* (ラテン語), *congregazione*, *compagnia*, *confrérie*, *confrada*, *Bruderschaft*, *confraternity* (俗語) [日本語では兄弟団、信心会、兄弟会、信徒会などと総称されている] などとよばれ、自己の魂の来世における救済を希求した人びとの強い宗教的願望にもとづいてヨーロッパ各地に繁茂した。本稿では、川村信三氏の近著『キリシタン組織の誕生と変容 コンフラリアからこんふらりあへ』(教文館、2003年)に触発されつつ、近世のイタリアから日本へと伝播したキリスト教信徒集団(コンフラリア)の中・近世ヨーロッパにおけるあり方を再考したいと思う。その際、便宜上兄弟団(コンフラタニティ)のタームを用いて、以下述べていくことにする。

兄弟団は、共通の守護聖人への帰依を媒介とする絆によってメンバー相互が結ばれた自発的団体であり、おのおのの死に備え、永続的生への期待を現世における「慈愛」と「典礼」の儀礼的行為を通じて追及した組織であった。その構成員は、通常多様な職種、身分の者を含んでおり、また血縁の関係によらず、共通の規約にもとづく人的絆への参加によって形成され、いわば擬制的家族としての性格を備えていた。職業団体としてのギルドと並んで、兄弟団は、中・近世のヨーロッパの都市生活における市民の霊的・物質的側面において多様な貢献をなしたと考えられており、1980年代以降、ヨーロッパ社会史研究において重要な研究テーマとなってきた<sup>1</sup>。

兄弟団研究はヨーロッパ各国で進められているが、本稿では近年の兄弟団研究の主要な視角を3点挙げておくにとどめたい。第1に、兄弟団によって担われたさまざまな儀礼的活動が、都市内部の人間関係(パトロネージやクリエンテージ)や都市共同体の文脈において果たした意味の解明に関心が向けられていることである。第2に、キリスト教社会である中・近世ヨーロッパの俗人集団(市民)が個人レベルでどのようにキリスト教を受容し、日常生活の中にとりこんでいたのかを理解する上で、多様な類型からなる兄弟団の社会的活動の分析が世俗の民衆の宗教性と社会性の交わることを浮き彫りにすると考えられることである。この点に関しては、私見ではとりわけ兄弟団による救貧活動の時代的変容と地域的差異が興味深い問題を提示している。第3

---

<sup>1</sup>近年の研究文献については、末尾の文献目録を参照されたい。

に、身分制社会であった中・近世ヨーロッパにおける水平的な絆（社会的紐帯）のネットワークという視点から、特にイタリア都市における兄弟団のメンバー相互の関係や、都市コムーネと兄弟団相互の関わりという問題がある。これら 3 つの視点に即して、南北ヨーロッパ地域の兄弟団のあり方の相違にも目配りすることで、ヨーロッパ世界における兄弟団の全体的、時代的特性を浮き彫りにすることが可能となるだろう。

## I 組織類型

兄弟団の組織はきわめて多様であり、地域により、また時期により異なったタイプの兄弟団の盛衰が確認される。本稿では、J.Henderson によるフィレンツェの兄弟団の分類などをもとにしながら、南欧に限定されない兄弟団の組織類型を提示しておく<sup>2</sup>。

- (i) 聖人崇敬〔讃歌〕（信心実践型）の兄弟団は、来世の執り成し人であり、また都市の守護者でもあった諸聖人や聖母マリアなどを（讃歌やミサ典礼、祭壇の装飾・整備などにより）讃えるために結成されたもので、ヨーロッパ全域でもっとも数の多かった兄弟団であった（マリア兄弟団、コーパス・クリスティ兄弟団、ロザリオ兄弟団など）。このタイプは、イタリアでは全市の組織が多いが、北部ヨーロッパでは、教区単位で形成されることが多かった点が異なっている。
- (ii) 鞭打ち苦行兄弟団は、disciplinati と呼ばれ、（自己の）罪の改悔のために定期的に鞭打ちを行なうことを特徴としていた。イタリアでは 13 世紀後半から 15 世紀にかけて増加するが、イタリア・スペインをのぞくその他の地域では根付かなかった組織である。
- (iii) 慈善兄弟団は、七つの愛徳（慈愛）を行なうことをめざし、社会の中の貧者に対して施しをなすことで自己の魂の救済への執り成しを求めた組織で、数はタイプ（i）（ii）に比して少なかったが、イタリア、フランス、スペイン、ポルトガルでは貧困化が深刻化した中世後期以降、大規模な救貧活動を実践した Misericordia の活動が注目される。
- (iv) 巡礼兄弟団は、本来サンチアゴ巡礼やエルサレム巡礼をおこなった者だけが参加できるとされた団体だったが、実際にはより緩やかな条件で参加可能であった。特に 13 世紀後半から 14 世紀にかけては、聖ヤコブの聖地サンチアゴ・デ・コンポステラへの巡礼組織としてフランス、ネーデルラント、南ドイツなどで繁茂した兄弟団である。この兄弟団は巡礼者の世話をするだけでなく、多くの場合巡礼や寡婦を受け入れる Hospital（施療院）を運営していた点が特徴的である。
- (v) 同業者や青少年による兄弟団は、それぞれ、職業的、年齢的、社会的状況の共通する者たちの集団として祝祭におけるプロセッションや宗教劇の上演、絵画の発注、音楽家の雇用などを中心とする視覚芸術（Visual Art）へのパトロネージの役割においてとりわけ注目され

<sup>2</sup> J.Henderson[1994] pp.33-38; R.Rusconi[1986] pp.474-475; C.Black[1989]pp.23-32..

る組織であった。

こうしたさまざまな種類の兄弟団が存在したために、複数の兄弟団に所属する者や、一つの兄弟団から別の兄弟団へ移る者など、兄弟団のメンバーそのものは流動的で同職ギルドの組織のように常に安定的なものではなかった点で、A.Vochez は、こうした兄弟団の盛衰を物理学における「ブラウン運動」の現象にたとえている<sup>3</sup>。とはいえ、C.ブラックによれば大半のイタリア都市では、16世紀に成人の4分の1以上が兄弟団に加入していたと見積もられ、また15世紀フィレンツェでも人口の27%が何らかの兄弟団に加入していたとみなされている<sup>4</sup>。これに対して北部ヨーロッパの都市ではそれほど高い割合ではなかったと思われる。

## II 信心の諸形態

兄弟団の活動はさまざまな信心の形態をとって行なわれた。それらの意義については、3点指摘しておくことにしたい。

第1に、兄弟団が都市の祝祭や兄弟団の守護聖人のための祭壇装飾や絵画、礼拝堂付司祭や音楽家の雇用などのパトロネージとクリエンテージにおいて多大な貢献をしたことである。一例として、フランドル都市ブルッヘでは、14世紀後半から15世紀にかけて知られる<雪の聖母兄弟団> (Gilde van Onse LieveVrouwe van der Snee) や<乾木の聖母兄弟団> (Gilde van O.L.V. van den Drogen Boom) がフランチェスコ会修道院に祭壇をおくマリア崇敬の兄弟団として成立した。この二つの兄弟団はそれぞれ市内の画家や彩色写本師など各種の職人の他、フィレンツェをはじめとする外国商人、ブルゴーニュ宮廷の貴族なども含む会員数200名を超える社交クラブ的組織であったが、聖母マリアの祝祭日を中心に、マリア崇敬のための儀礼的活動を行い、賛歌詠唱やミサのために専属の歌手を雇用していた。女性や子供もメンバーとして含まれていたことも特筆される組織であるが、1495年以降残されている会計帳簿から、<乾木の兄弟団>の主要な支出が、毎週日曜と祝祭日におけるミサのための歌手とオルガン奏者のための経費や、祭壇画や祭壇用の布や装飾の発注であったことが知られている<sup>5</sup>。またこれらの兄弟団は、都市ブルッヘとブルゴーニュ公の政治的和解の儀礼として行なわれたブルゴーニュ公のブルッヘへの入市式儀礼(1440年、1468年など)において、活人画(タブロー・ヴィヴァン)と呼ばれる宗教劇の舞台の設定や通りの装飾・アレゴリーにおいて主要な役割を演じており、ブルゴーニュ公に対する都市ブルッヘの共同体としてのアイデンティティないしイデオロギー(都市ブルッヘのもつ既得権のアレゴリカルな主張)を可視化する役割を果たしたといえる<sup>6</sup>。イタリア都市においても都市コムーネと同様な結びつきを持った兄弟団として、フィレンツェのマリア兄弟団であるオルサンミ

<sup>3</sup> A.Vouchez[1986] pp.467-468.

<sup>4</sup> Black[1989] pp.269-270 ; Henderson[1994]p.439.

<sup>5</sup> R.Strohm[1983] pp.47-48; 71-73.

<sup>6</sup> 河原温「15世紀フランドルにおけるブルゴーニュ公権力と都市 1440年のブルッヘ入市式を中心に」渡辺節夫編『ヨーロッパ中世の権力編成と展開』東京大学出版会、2003年、361-385頁。

ケーレの例を挙げることができる<sup>7</sup>。

第2に、死者の埋葬と死者の記憶の永続化の儀礼において兄弟団が南北ヨーロッパを問わず重要な役割を担ったことである。確かに多くの兄弟団では、通常死者の埋葬と祈りの儀礼は、兄弟団内部の仲間限定されて行なわれていたように見えるが、いくつかの兄弟団(ドイツの Elender Bruderschaft など)は、見知らぬ行き倒れの者を介護し、埋葬する活動を目的としていたのである<sup>8</sup>。そこには、仲間、親族、隣人、知人に限定されない兄弟団の慈愛の業が見出されるのであり、川村氏が前述の『キリシタン組織の誕生と変容』の中で明らかにされているように、日本のキリシタン信徒団(豊後のミゼリコルディア)によってなされた「行き倒れの死者の埋葬活動」(これは日本の伝統社会の穢れにかかわるタブーであったとされている)の意義を考える上でも参照系となるように思われる。

第3に、イタリアの兄弟団では、聖職者によらず俗人による説教が兄弟団のメンバーに対してなされたことは、北部の兄弟団(こちらでは、托鉢修道会士が主に説教を依頼されて行なった)以上に俗人信徒による宗教的参加への強固な意志をうかがわせる。カトリック教会や修道会の司牧に完全に包摂されることなく、俗人信徒の独自の敬神(Piety)の発露がそこには見出されるが、こうした兄弟団メンバーの自律性は、16世紀後半以降失われていった過程がさらに検討される必要があるだろう。

### III 慈善・救貧活動：ヨーロッパの南と北

イタリアやスペインの都市における兄弟団の救貧活動は、13世紀後半以降ミゼリコルディア兄弟団を中心に注目すべき広がりや規模を示した。その特徴として、黒死病以前(14世紀半ば以前)において、貧者への寄進は、対象者を選別せず、また直接的な物資の分配が中心であったことがあげられる。特にフィレンツェのオルサンミケーレ兄弟団は3000人近くのメンバーを擁し、14世紀前半に女性や子供を中心に5000人をこえる貧民への援助を行っていた点で注目に値する。しかし、その活動は14世紀後半から、選別的になり、特定のカテゴリーの貧民(リストに記載された寡婦、未婚の単身女性、中小の窮乏化した手工業者など)へと限定されていくのである。そうした兄弟団の救貧活動の対象と範囲の限定化ないし縮小化は、15世紀におけるコムーネやギルドのイニシアティブによる各種の病院・養老施設の成立・発展と軌を一にして生じている。すなわちフィレンツェでは兄弟団による救貧活動は14世紀をピークとしており、15世紀以降、それを補完するさまざまな施設の発展により兄弟団は直接的な救貧・慈善活動からは後退していく<sup>9</sup>。

この点で、北部ヨーロッパの兄弟団による救貧活動は、13世紀以来きわめて儀礼的かつ限定されたものであったことは否めない。例外的にスヘルトーヘンボッス(北部ネーデルラント)の聖

<sup>7</sup> Henderson[1994] pp.236-237.

<sup>8</sup> 阿部[1979] 参照。

<sup>9</sup> Henderson[1994] pp.292-296; 406-410.

母兄弟団は、14世紀に広範なメンバーを都市の内外から集め、オルサンミケーレ兄弟団に類似した大規模な貧民への分配を行っていたが、通常北部ヨーロッパの兄弟団の場合、その救貧活動はメンバー内部の相互扶助に限定され、不特定多数の貧民に対する援助はほとんど行なわれなかったこと、また守護聖人の祝祭日など一年のうちきわめて限られた日に援助を行なったに過ぎなかったのがある。そうした状況を補完したのは、ネーデルラントでは「聖霊の食卓」と呼ばれる教区単位の俗人市民による独自の救貧組織であり、14~16世紀にかけて、ヘント、ブリュッセル、ブルッヘなど主要な都市で教区在住の貧民に対するさまざまな物資の分配が行なわれた。北部ヨーロッパでは、こうした教区レベルでの市民的救貧活動が南欧の全市の兄弟団による救貧活動に対応していたといえるだろう<sup>10</sup>。

#### IV 都市共同体における社会的紐帯としての兄弟団

##### (1) 教区との結びつきないし地縁性の強弱の問題

中世・ルネサンス期のイタリアの兄弟団では、これまで教区的結びつきは弱かったことが強調されてきた。例えばフィレンツェやヴェネチアでは、15世紀初頭まで多くの兄弟団が全市的な組織として機能し、慈善活動も全市的な規模で行なわれたとみなされてきたからである。しかし、小教区(parochia)をベースとした教区兄弟団がまったく存在しなかったわけではなく、むしろフィレンツェの San.Spirito 教区に限定して死者の埋葬を担った14世紀後半の〈焼き栗兄弟団〉の事例が示すように、小教区レベルでの兄弟団活動をあまり否定的に考えることはできないと思われる<sup>11</sup>。他方、北部ヨーロッパでは、イタリアに比べて都市における小教区は数が少なく、空間的に比較的大きな広がりを持っていた。南ネーデルラントの都市ヘントやリエージュにおいては、マリア兄弟団が小教区ごとに組織されて教区活動を行っており、中世を通じて小教区は兄弟団活動の基盤となりえたのである<sup>12</sup>。したがって、イタリア都市のように、16世紀以降になって、兄弟団に対する小教区の役割が拡大したわけではないという点が大きな違いと言えるだろう。

##### (2) 都市の守護聖人(シンボル)との結びつき 共同体理念との関連性

ヘントでは、14~16世紀に都市の守護聖人 St.Lieven 崇敬のための〈Sint Lieven 兄弟団〉が活動し(プロセッション、聖遺物の保持、祝祭時の宴会など)とりわけ15世紀におけるブルゴーニュ公国のシャルル突進公と都市ヘントの政治的対立時には、都市の特権維持のために手工業者を中心とした都市民衆を一体化する上で重要な要の組織としての役割を果たした。こうした都市の守護聖人のための兄弟団が、都市共同体構成メンバーの政治的一体化、都市の凝集性(Solidarity)に対する貢献をなしていたことが指摘できる<sup>13</sup>。他方、イタリア都市の場合、フィ

<sup>10</sup> 河原[2001] pp.142-143.

<sup>11</sup> B.Pullan [1994] V, pp.186-187.; Henderson[1988] pp.247-272.

<sup>12</sup> P.Trio [1993] pp.331-333; D.Dieterch[1982].

<sup>13</sup> P.Arnade[1996] pp.148-158.

レンツェやベルガモの事例から、都市コムーネ内部の党派間における不和と緊張を緩和し、都市内部の平和維持のために仲介的役割を果たした特定の兄弟団（Misericordia など）の活動が知られており、都市のアイデンティティ保持のために機能した組織として、兄弟団の役割はさらに検討される意味があるだろうと考える<sup>14</sup>。

### (3) 都市当局・教会と兄弟団の関係

#### a. 都市当局と兄弟団

北部ヨーロッパの兄弟団の場合、ヘントの事例研究からすると、兄弟団と都市当局（都市参事会）の関係は、規制より支援の立場であったことがわかる。ヘントでは14世紀の都市会計簿から、7つの主要な兄弟団（教区単位のマリア兄弟団とヤコブ兄弟団）に対する祝祭日におけるワインやビールの提供や、そうした兄弟団の宴会への都市役職者の参加が知られており、またヤコブ兄弟団の役職者（監督者）は、都市の役職にもしばしばかかわっていて、都市社会内部での「社会的上昇」のためのステップの一段階をなしていたと考えられている。またフランドル地方では、司教[トゥールネ]や大司教[ランス]は、兄弟団の規約を認証する役目は負っていたが、兄弟団を規制する動きは知られていない<sup>15</sup>。

他方、イタリア都市では、都市当局[コムーネ]と兄弟団の関係は北部ヨーロッパと比較するならばより両義的であったといえよう。すなわち政治的、党派的な立場に特定の兄弟団が組み込まれたとき、都市当局は兄弟団の活動を規制しているからである。兄弟団はまた、場合により、都市で発布された奢侈条例に見られるようなモラル的な規制の対象ともなったのである<sup>16</sup>。

#### b. 教会と兄弟団

特にバロック期以降の兄弟団のあり方と対比すると、中世・ルネサンス期のイタリアの兄弟団の特徴の一つは、俗人メンバーが霊的側面(改悛、説教など)を含めてその活動を主導した世俗的組織であったことが指摘されている<sup>17</sup>。従来兄弟団の儀礼的行為(ritual practice)は托鉢修道会から受容されたという説が一般的であったが、近年の諸研究は、むしろ俗人メンバーによるイニシアティブを強調する方向にある。イタリアの兄弟団は、16世紀半ばまでは司教や教区司祭によって非常に緩やかな規制しか受けていなかった。しかし16世紀後半(特に1545年のトリエント公会議)以降、兄弟団の自律性は、教会当局や改革派の聖職者たち(Borromeo、Saint-Vincent de Paulらに代表される)により弱められ、教区司祭の管轄下で、教区教会に結び付けられた半教会的組織へと移行していったとされているのである<sup>18</sup>。北部ヨーロッパにおいても、カトリック圏の都市の兄弟団の事態は、イタリアとそれほど異なっていないと思われる。

しかし、教区と兄弟団の関係は、北部ヨーロッパでは16世紀以前から強固であり、むしろ司教の指導の強化により、兄弟団の自律性の喪失が見通されることになる。

<sup>14</sup> Henderson[1994]p.373; R.F.E.Weissman[1994] p.80.; R.Cosssar[2001] pp.146-147.

<sup>15</sup> Trio [1990] pp.206-210; 河原[1995] pp.270-272.

<sup>16</sup> Henderson[1994] pp.58-59; 419-420; Weissman[1988].

<sup>17</sup> Weissman[1994] p.78.

<sup>18</sup> Black[1989] pp.273-274.

## V 課題と展望

まとめとして以下の諸点を挙げておきたい。第1に兄弟団は、多様化され、党派化された中世の都市社会において共同体のアイデンティティを儀礼的に強化する役割を果たしたと考えることができる。また中世後期から近世にかけて、ヨーロッパにおける視覚芸術（visual arts）の発展にとって兄弟団が集团的パトロンとして果たした役割も大きかったといえるだろう。

第2に中世後期・近世における救貧システムの中での兄弟団の位置を考える時、16世紀前半を画期として、ヨーロッパでは「社会的規律化」の進展を背景に救貧システムの転換（救貧条例の制定とそれに先立つ都市当局、公権力によるイニシアティブの強化）が生じてきた点に注目する必要がある。宗教改革期のプロテスタントの政策のみならず、カトリック圏においてもほぼ同時期にかかる変化が生じており、そうした改革に対して兄弟団組織がこれまでの救貧・愛徳（特に直接的な物資の分配、死者埋葬の儀礼など）の実践をどのように変更させられていったのかを問うことが今後の一つの課題であろう。

また、イタリアでは15世紀末から公営質屋（モンテ・ディ・ピエタ）が設立され、貧民救済の一環として低利子で貧民を援助する組織が托鉢修道会のイニシアティブにより進められたこと、さらに15世紀後半から16世紀にかけて医療・慈善施設の専門分化が進められ、病者と貧民が明確に区別されていった点も、イタリアにおける兄弟団の救貧活動の衰退に作用した重要な要因であったといえよう<sup>19</sup>。

第三に、16世紀における兄弟団の変容の問題がある。イタリア、フランス、スペインを通じて、兄弟団は対抗宗教改革とそれに続くトレント公会議（カトリック改革 Catholic Reformation）を経て、16世紀末まで（1590年代）に sacramental（mediative sacramental cults）を重視する教区教会に統合されていく（ローマの Compagnia di Santa Maria Sopra Minerva）。中世・ルネサンス期の兄弟団が備えていた組織的自律性や社会的異質性（social heterogeneity）、メンバー相互の平等性などに代わって、排他的なローカルエリートに限定された兄弟団が増加し、メンバーの集合的・相互的紐帯の重視（mutuality and reconciliation）に代わり、個人の瞑想と内面的規律（private meditation and interior discipline）を重視する新たな兄弟団のエートス（interior mediative piety）が近世（バロック期）の兄弟団を特徴づけることになるという R. Weissman の指摘が今後さらに検討される必要があるとおもわれる<sup>20</sup>。

<sup>19</sup> Pullan [1994] V, pp.190-193; Henderson[1994] pp. 354-410. なおモンテ・ディ・ピエタの設立については大黒俊二「ベルナルディーノとモンテ・ディ・ピエタ設立運動」『イタリア学会誌』51,2001 が詳細に論じている。

<sup>20</sup> Weissman[1994] pp.93-94.

### Selected Bibliography

- Arnade, P. *Realms of Ritual. Burgundian Ceremony and Civic Life in Late Medieval Ghent*, Ithaca, 1996.
- Banker, J.R. *Death in the Community. Memorialization and confraternities in an Italian commune in the late Middle Ages*. Athenes & London, 1988.
- Barnes, A. Poor Relief and Brotherhood, *Journal of Social History*, 24-3, 1991, 603-611
- Becker, M. Aspects of lay piety in early Renaissance Florence, in: *The Pursuit of Holiness in Late Medieval and Renaissance Religion*, Leiden, 1974, 177-199.
- Blasting, R. The German Bruderschaften als Producers of Late Vernacular Religious Drama, *Renaissance and Reformation*, 25-1, 1989, 1-14.
- Black, C.F. *Italian Confraternities in the Sixteenth Century*, Cambridge, 1989.
- Bornstein, D. Corporazioni spirituali: proprietà delle confraternite e pietà dei laici, *Ricerche di Storia Spirituale e Religiosa*, 48, 1995.
- Cossar, R. The quality of mercy: confraternities and public power in medieval Bergamo *Journal of Medieval History*, 27, 2001, 139-157.
- Crossing the Boundaries: Christian Piety and the Arts in Italian Medieval and Renaissance Confraternities*, Kalamazoo, 1991.
- Crouch, D.J.F. *Piety, Fraternity and Power. Religious Gilds in Late Medieval Yorkshire, 1389-1547*, York, 2000.
- Delaruelle, E. *La piété populaire au Moyen Age*, Turin, 1980.
- Dieterich, D. Confraternity and Lay Leadership in Sixteenth-Century Liège, *Renaissance and Reformation*, 15-1, 1989, 15-34.
- Donnelly, J.P. & M.W. Maher (eds.), *Confraternities and Catholic Reform in Italy, France and Spain*, Kirksville, 1998.
- Eckstein, N. "Con Buona Affetione": Confraternities, Charity, and the Poor in Early Cinquecento Florence, in: T. Max Safley (ed.), *The Reformation of Charity*, Leiden, 2003.
- Id. The Religious Confraternities of High Renaissance Florence: Crisis or Continuity? In: B. Kent & C. Zika (eds.), *Rituals, Images and Words: the Varieties of Cultural Expression in Late Medieval and Early Modern Europe*, Leiden, 2003.
- Eisenbichler, K. Italian Youth Confraternities in an Age of Reform, in: *Confraternities and Catholic Reform*, 1998, 27-44.
- Flynn, M. *Sacrid Charity: Confraternities and Social Welfare in Spain, 1400-1700*, 1989.
- Id. Rituals of Solidarity in Castilian Confraternities, *Ren. & Reform.*, 15-1, 1989, 53-68.
- Gavitt, Ph. Charity and State Building in Cinquecento Florence, *JMH*, 69, 1997, 230-270.

- Galpern, A.N. *The Religions of the People in Sixteenth Century Champagne*, 1976
- Henderson, J. The Flagellant Movement and Flagellant Confraternities in Central Italy, 1260-1400, in: *Studies in Church History* 15, 1978, 147-160.
- Id. Le confraternite religiose nella Firenze del tardo medioevo. Patroni spirituali e anche politici? *Ricerche Storiche*, 15, 1985.
- Id. Charity and the Poor in Florence at the time of the Black Death: the case of S. Frediano, in: J.Henderson(ed.), *Continuity and Change*, vol.1,1988, 247-272..
- Id. Charity in Late Medieval Florence: The role of religious confraternities, in: *Florence and Milan: Comparisons and Relations*, Florence, 1989, 67-84.
- Id. *Piety and Charity in Late Medieval Florence*, Oxford,1994.
- Id. Charity and Welfare in Early Modern Tuscany, in:O.P.Grell et al.(eds.).*Health Care and Poor Relief in Counter-Reformation Europe*, London, 1999, 56-86.
- Johanek, P.(Hrsg.) *Einungen und Bruderschaften in der Spätmittelalterlichen Stadt*,
- La Ronciere, Ch.M. de, Les confréries en Toscane aux XIVe et XVe siècles d'après les travaux recents, in: *Ricerche per la storia religiosa di Roma*, 5, 1984,50-64.
- Le mouvement confraternel au Moyen Age. France, Italie, Suisse*, Rome,1987.
- Little,L.K. *Liberty, Charity, Fraternity. Lay Religious Confraternities at Bergamo in the age of the Commune*, Northampton, MA, 1988.
- Meerssemann,G.G. *Ordo fraternitatis, confraternite e pietà dei laici nel Medioevo*, Roma,1977
- Militzer, K. Ursulabruderschaften in Köln, *J.b. des Köln. Geschichtsvereins*, 66,1995.
- Orioli, L. *Le confraternite medievali e il problema della povertà. Lo statuto della compagnia di Santa Maria Vergine e di San Zanobio di Firenze nel secolo XIV*, 1984.
- Papi,M. Le confraternite fiorentine tra Medioevo e Rinascimento, in: *Ricerche di Storia sociale e religiosa*, 17-18, 1980, 121-133.
- Pericard-Mea, D. *Compostelle et cultes de saint Jacques au Moyen Age*, Paris,2000.
- Roberts, P.L. Cornelis Buys the Elder's Seven Works of Mercy: An Exemplar of Confraternal Art from Early Sixteenth-Century Northern Europe, *Renaissance and Reformation*, 15-1, 1989, 135-150.
- Pullan, B. *Poverty and Charity: Europe, Italy, Venice, 1400-1700*, Aldershot, 1994.
- Rondeau,J. Conducting gender: theories and practices in Italian confraternity literature in: K.Ashley & R.L.Clark(eds.), *Medieval Conduct*, Minneapolis, 2001,183-206.
- Rubin, M. Fraternities and Lay Piety in the Later Middle Ages, in: *Einungen und Bruderschaften in der Spaetmittelalterlichen Stadt*,1993, 185-198.
- Rusconi, R. Confraternite, compagnie e devozioni, in: *Storia d'Italia*. Annali,9, 1986.
- Schiferl, E. Caritas and the iconography of Italian confraternity art, *Studies in Iconography*,

- 14, 1995, 207-246.
- Spicciani, A. "The Poveri Vergognosi" in Fifteenth Century Florence, in: T.Riis(ed.) *Aspects of Poverty in Early Modern Europe*, Firenze-Stuttgart, 1981,119-182.
- Strohm, R. *Music in Late Medieval Bruges*, Oxford, 1983
- Terpstra, N. Apprenticeship in Social Welfare. From Confraternal Charity to Municipal Poor Relief in Early Modern Italy, *Sixteenth Century Journal*, 25, 1994
- Id. *Lay Confraternities and Civic Religion in Renaissance Bologna*, Cambridge,1995
- Id. Confraternities and Public Charity. Modes of Civic Welfare in Early Modern Italy, in: *Confraternity and Catholic Reform*, 1999, 97-121.
- Trio, P. *De Gentse Bruderschappen (1182-1580)*, Gent, 1990
- Id. *Volksreligie als spiegel van een stedelijke samenleving: De broederschappen te Gent in de late middeleeuwen*, Leuven, 1993.
- Id. Middeleeuwse broederschappen in de Nederlanden. Een balans en perspectieven voor verder onderzoek, *Trajecta*, deel 3, 1994.
- Id. Les confréries des Pays-Bas face au problème de la pauvreté(XVe –XVIe siècle), in: L.Bertoldi Lenoci(ed.), *Confraternite, chiesa e società*. Fassano, 1994.
- Id. Les confréries comme expression de solidarité et de conscience urbaine aux Pays-Bas à la fin du Moyen Age, in:H.Brand et al (dir.), *Memoria, Communitas, Civitas: Memoire et conscience urbaines en Occident à la fin du Moyen Age*, 2003, 131-141
- Van Dijck,G. *De Bossche optimaten. Geschiedenis van de illustere Lieve Vrouwe Broederschap te 's-Hertogenbosch*, 1318-1973, Tilburg, 1973.
- Vauchez,A. Les confréries au Moyen Age:éskisse d'un bilan historiographique,*RH*,1986
- Vauchez,A.(dir.) *La religion civiq à l'époque médiévale et moderne*, Rome, 1995.
- Vincent,C. *Des charités bien ordonnées: les confréries normandes de la fin du XIIIe siècle au début du XVIe siècle*, Paris, 1988.
- Id. *Les confréries médiévales dans le royaume de France(XIIIe-XVe siècle)*, Paris, 1994
- Weissman,R.F.E. *Ritual Brotherhood in Renaissance Florence*, New York-London,1982
- Id. Brothers and Strangers: Confraternal Charity in Renaissance Florence, *Historical Reflexions*, 15-1, 1988, 27-45.
- Id. From Brotherhood to Congregation: Confraternal Ritual between Renaissance and Catholic Reformation, in: *Riti e rituali nelle società medievali*, Spoleto, 1994, 77-94
- Wilson, B. Music and Merchants: The Laudesi Companies in Early Renaissance Florence, *Renaissance and Reformation*, 15-1, 1989, 151-171.

- 阿部謹也 「中世ドイツの *fraternitas exulum*」一橋論叢 81-3, 1979
- 同 「中世ハンプルクのビール醸造業と職人」一橋論叢 83-3, 1980
- 池上俊一 「13～14 世紀シエナの社会的結合関係」『西洋中世像の革新』刀水書房、1995
- 市川実穂 「中世後期のイングランドと都市儀礼 ノリッジの聖ジョージ・ギルドの祝祭」  
『西洋中世像の革新』刀水書房、1995
- 江川温 「中世末期のコンフレリーと都市民」中村賢二郎編『都市の社会史』1983
- 河原温 「中世都市ヘントの兄弟団と貧民救済」『西洋中世像の革新』刀水書房 1995
- 同 「中世ネーデルランドの兄弟団について」『日蘭学会会誌』、22 - 1、1997
- 同 「15 世紀フィレンツェにおける兄弟団と貧民救済 Buonomini di San Martino の場合」  
『<ヨーロッパの歴史>を読む』東京学芸大学海外子女教育センター、1997
- 同 「フラテルニタス論」岩波講座世界歴史 8 『ヨーロッパの成長』岩波書店 1998
- 同 「中世ローマ巡礼」歴史学研究会編『巡礼と民衆信仰』所収、青木書店 1999
- 同 「兄弟団（コンフレリ）と相互扶助」佐藤彰一他編『西洋中世史研究入門』所収 2000
- 同 『中世フランドルの都市と社会 慈善の社会史』中央大学出版部、2001
- 坂上政美 「中世末期フィレンツェの兄弟会」史林 82 - 4、1999
- 坂巻清 「中世末期ロンドンの教区フラターニティ」『都市と共同体』（下）名著出版、1991
- 佐久間弘展 「職人兄弟団 宗教がとりもった仲間たち」『中世ヨーロッパを生きる』2004
- 関哲行 「中世のサンティアゴ巡礼と民衆信仰」『巡礼と民衆信仰』所収、青木書店、1999
- 同 「14 - 16 世紀の巡礼路都市アストルガの兄弟団」田北廣道編『中・近世西欧における社会統合の諸相』九州大学出版会、2001
- 同 「中近世スペインの救貧 サンティアゴ巡礼路都市を例として」長谷部文彦編著  
『中世環地中海世界の救貧』慶応義塾大学出版会、2004
- 高橋清徳 「中世パリのコンフレリ」『法経研究』（千葉大）10、1981
- 根占献一「コンパニーア考 プラトン・アカデミーの中世的・社会的背景」『ルネサンス研究』1,1994
- 服部良久 「中世リュベックの兄弟団について」『都市の社会史』、ミネルヴァ書房、1983
- 米田潔弘 「ルネサンス・フィレンツェの音楽生活(I)～(VIII)」『桐朋学園大学研究紀要』17 - 24、  
1991～1998
- 同 「兄弟会研究の現状と展望」『桐朋学園大学研究紀要』25、1999
- 同 「15 世紀フィレンツェにおける慈善と教育」『桐朋学園大学研究紀要』29,2003.